

# 耐震対策事業、こんなことでお困りではないですか？

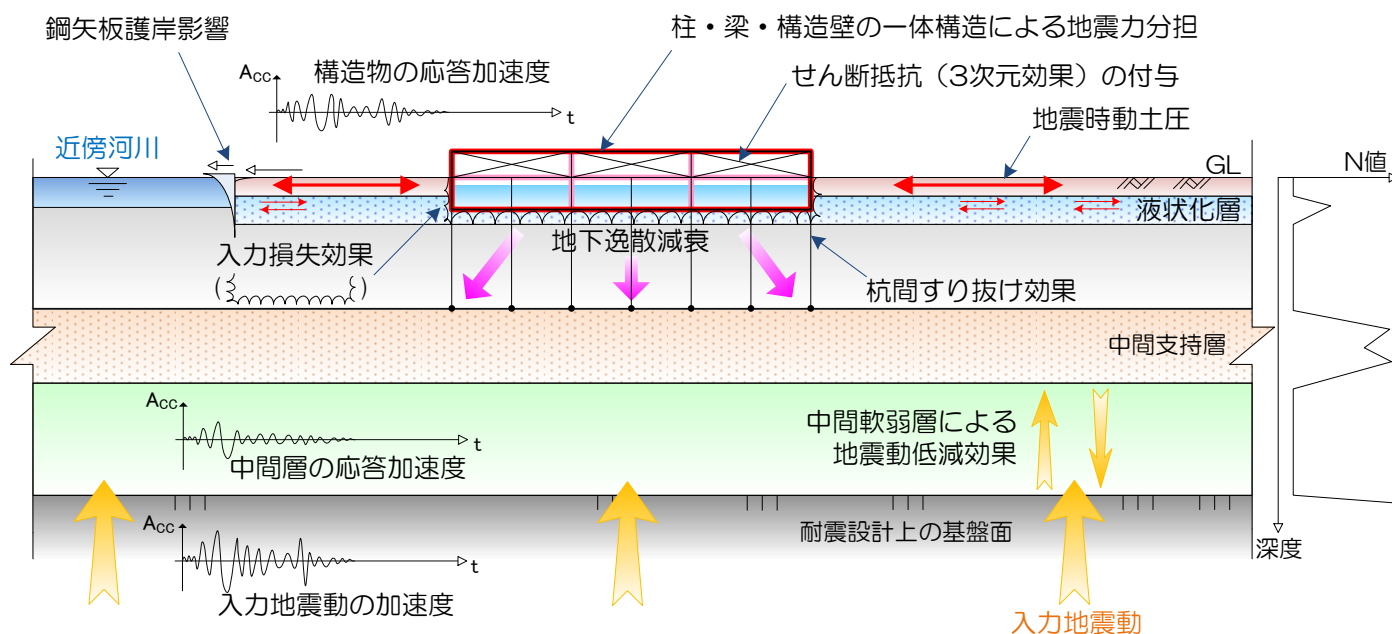
ケース1. 耐震診断は行ったものの、NG部材が非常に多く、現行基準を満足させる耐震補強工事は現実的に困難である・・・

建造物の耐震補強は、一般的に以下の工法が採用されています。

- ⇒ 『コンクリート増打ち工法』
- ⇒ 『あと施工せん断鉄筋補強工法』 『炭素繊維シート巻立工法』

これらの工法は、耐力不足となる部材の剛性やじん性を高める有効な工法ですが、その前に、**本当にそれだけの補強量が必要なのでしょうか？**

日水コンでは、地盤や建造物の特性を考慮し、**3次元解析、非線形解析、動的解析、地盤の有効応力解析**など、その施設に適した解析方法を検討し、より詳細な耐震診断および耐震補強設計をご提案しております！

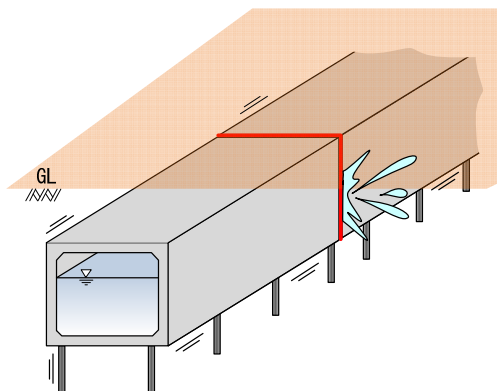


従来の静的線形解析 ( $C_s=0.45$ ) から、上図のような**動的非線形解析**を実施することにより、耐震補強工事費が**約1/20**になった事例もあります。

ケース2. 放流渠のジョイント部に可とう継手を設けたいが、放流先の 水位の関係上、内部を空水にできない・・・

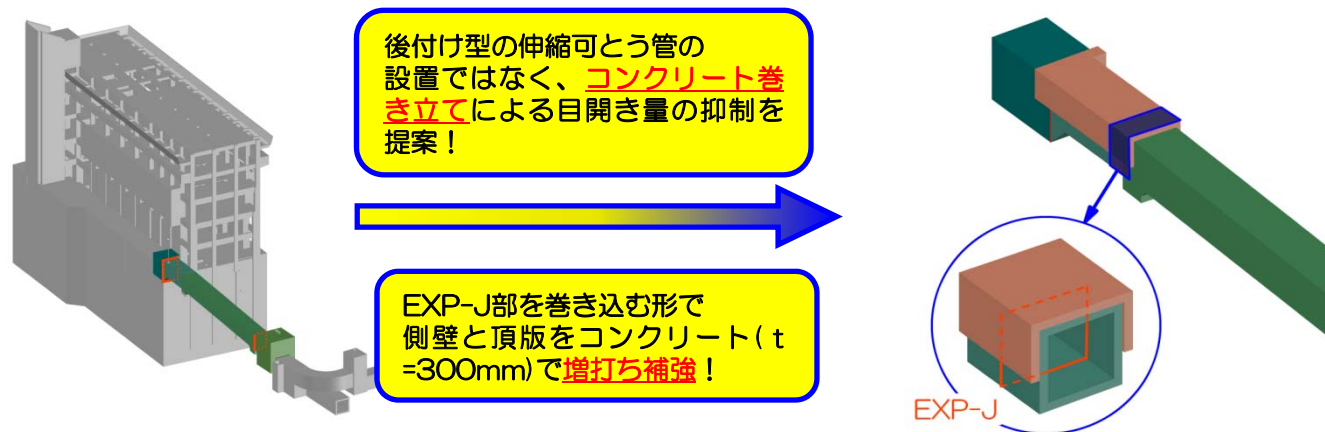
下水道における水処理施設や管路施設等の構造物は、地震動による目地幅の変位に追従し、漏水を防止する機能が重要視されています。

『下水道の地震対策マニュアル2014年版』（日本下水道協会）では、構造物と管路の境界部や、管路同士に設けられている伸縮継手に、後付け型の伸縮可とう継手を設置することで、**漏水対策（二次災害防止）**を行うことが推奨されています。



後付け型の伸縮可とう継手を計画しても、処理場の運用上、水路内部をドライにできないケースがあります。可とう継手の内巻き施工ができない場合は、**耐震補強工事を諦めていませんか？**

日水コンでは、逆転の発想でジョイント部の**剛性**を高め、**目開き量を抑える提案**をさせていただいた事例があります。



創意工夫によって、皆様がお困りの施設に対して、**耐震化**のお手伝いができるかもしれません。日水コンでは**高い技術力**を以て、様々な提案をさせていただきます！